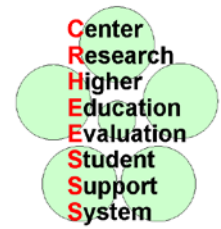


# 週刊センターニュース

No.278



第278号(2009年9月28日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 〇〇〇 第246回共同学習会のご案内 〇〇〇

日時: 10月6日(火) 16時30分~18時 ※開催曜日が通常と異なりますのでご注意ください。

会場: 角間キャンパス 総合教育1号館2階 会議室

テーマ: 「学生支援 GP の健康教育についてー学生支援 GP シリーズ第三回ー」

報告者: 吉川弘明、足立由美 (保健管理センター)

内容: 平成19年度に学生支援 GP に選定された「心と体の育成による成長支援プログラム」の取組として、第1層: 環境づくり、第2層: 正課教育、第3層: 課外教育において心身の統合的健康教育を行い、自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神をもった人材育成を目指している。

今回の共同学習会では、第2層: 正課教育と第3層: 課外教育で行っている健康教育(健康論、健康論実践、各種プログラム)を中心に、その実践と教育効果の報告を行い、今後の健康教育について参加者と検討したい。

## 〇〇〇 学生はどこで何を身につけているのか?ー学習成果の評価手法 〇〇〇

大学が大学生に身につけるべき力として、昨年12月発表の中教審答申(「学士課程教育の構築に向けて」)は「知識理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学習経験・創造的思考力」の4つを参考指針として提示した。このうち、専門(分野)を超えて身につけていくべき力とみなされるジェネリックスキル(=汎用的知識・技能)に着目する。

濱名篤氏(関西国際大学学長)を代表とする研究グループは、導入教育と学習支援、初年次教育の国内外調査、学生の適応・経験変化に関するパネル調査など、学生の多様化に伴い学力や学習意欲を向上させる教育内容・方法に対し、早くから関心をもち研究を進めており、9月12日(土)に早稲田大学で開催された第61回教育社会学会(5月中旬開催の第12回高等教育学会(長崎大学)で関連報告あり)においても興味深い報告を行っている。大学教育のプロセスと学習成果を重視する流れの中で学習活動そのものに強い関心を向けても、なかなか取っ掛かりが掴めない大学(現場)も多いと推測される。そうした状況で、教育目標としてのそれらの能力の修得のメカニズムや測定方法等に関する科学研究は当然求められてくる。報告で依拠したアンケート調査は、大学3-4年生120数名(6大学で人文社会系学部中心)について、先の学士力を参考に設定した23の知識・技能・能力・態度の項目(ジェネリックスキル)の評定を、授業履修者の自己評価と友人評価、さらに教員評価の3つで(ほぼ同時期において)実施している(より詳細な説明はここでは省く)。

第1に、学生がどの場面でどのような力を身につけていると想定しているかという点をみると、項目によって想定場面に傾向が見られ、教育場面など文脈によって育成される項目は異なる可能性があることが分かるが、専門知識や論理的思考、チームワーク、問題解決など10項目のスキル獲得の想定場所として多いのが、「少人数ゼミ・演習」であり、多様なスキル育成にそれが適していると考えられる。

第2に、上記の自己評価を友人評価・教員評価と対照させると、平均して教員評価と自己評価の(平均)値は近似していること(一致率の高いものは、他の人と協力しながら物事を進められるが53%、自分の専攻する分野の知識を身につけているが49%)、友人評価では、自己評価も教員評価より高く評価する傾向にあり、また「分からない」という回答も多いことが分かる。学生間の新密度や、低年次における教員の指導経験が評価に(当然)影響を与えていることも示しているが、いずれにしてもジェネリックスキルの中でも学習場面や他人と関わるような教育場面(例えばゼミ)において見えやすい行動については評価が比較的容易で、逆に授業(ゼミ)以外での活動や、被評価者の意識など内面に関わる項目は評価しづらいことを明らかにしている。

更なるデータ・分析の蓄積は必要であろうが、こうした学習成果の評価手法の探索的調査からは、(学生による)自己評価に一定の妥当性があること、自己評価と他者評価の組み合わせによる多面的評価にあって一致・不一致部分があり、単に成果を多面的に見るだけでなく、教育場面の文脈に沿って、学習成果のそれぞれの特性に適した評価方法を探ることが重要であることを示唆している。

(文責：評価システム研究部門 渡辺達雄)

## 〇〇〇 「2009年度大学コンソーシアム石川FDフォーラム」開催のご案内 〇〇〇

テーマ：「学士力育成と教育の質保障を目指して」

趣旨：昨年12月の中教審『学士課程教育の構築を目指して』答申において示された重要な事項に、学士力という考え方があります。文部科学省も、「各大学・短期大学・高等専門学校から申請された、各大学等における学士力の確保や教育力向上のための取組」を支援する「大学教育・学生支援推進事業」を始めました。学士力の育成と教育の質保障について、機関の種別を超えて議論することは、全ての高等教育関係者の喫緊の課題です。高等教育機関教職員・学生のみならず、多くの市民の参加を期待します。

主催：大学コンソーシアム石川

日時：2009年10月17日(土) 13時～17時 (12時30分開場予定)

会場：石川県教育会館 3階 ホール 金沢市香林坊1-2-40

内容：開会挨拶 大学コンソーシアム石川会長 中村 信一(金沢大学長)

第一部 13時10分～

●基調講演『学士力育成と大学教育改革—金沢工業大学の実践—』 石川憲一(金沢工業大学学長)

第二部 14時30分～

●報告 (各報告 20分)

1 専門学習達成度試験とプロジェクト型学習による学生の能力向上

石川工業高等専門学校電子情報工学科准教授 山田洋士

2 「短期大学士力」育成にとっての課題を考える

小松短期大学学長 鹿野勝彦

3 金沢大学における学士力に関する学生と教員の認識—全学アンケートの結果より—

金沢大学大学教育開発・支援センター教授 堀井祐介、同 特任助教 末本哲雄

●テーマに関するパネルディスカッション (パネリスト：石川、山田、鹿野、堀井、末本)

●お知らせ 「戦略GPで変わる移転後の大学コンソーシアム石川」

戦略GP支援企画委員会委員長 古畑徹 (金沢大学教授)

閉会挨拶 大学コンソーシアム運営委員会委員長 向 智里(金沢大学学長補佐)

終了後、情報交換会 金沢21世紀美術館内「フュージョン21」(会場より徒歩5分)

※問い合わせ先：大学コンソーシアム石川事務局 担当：大野

TEL. 076-223-1633 FAX. 076-223-1644 E-mail: [shukan2@ucon-i.jp](mailto:shukan2@ucon-i.jp)